08010c4

発生動態に基づく野菜ウイルス病害の診断・防除技術の早期・高度化

１　代表機関・研究統括者

国立大学法人宮崎大学　竹下　稔

２　研究期間

令和８年度～令和１２年度（５年間）

３　研究目的

野菜生産における難防除ウイルス病の被害低減のため、ウイルス抵抗性誘導剤を探索するとともに、天敵、物理的防除資材、気門封鎖剤等を組み合せ、予防型総合防除体系を確立する。

４　研究内容及び実施体制

①　夏秋ピーマンの黄化えそ病（トマト黄化えそウイルス: TSWV）及びニガウリモザイク病（スイカ灰白色斑紋ウイルス: WSMoV）の総合防除体系の確立

定植期の早期診断、ウイルス抵抗性誘導剤、及び媒介虫防除資材（天敵、物理的防除資材、気門封鎖剤、基幹防除剤）との組み合わせによる夏秋ピーマンとニガウリのウイルス病の総合防除技術を開発する。

（大分県農林水産研究指導センター、沖縄県農業研究センター、宮崎大学）

②　タバココナジラミが引き起こすキュウリ退緑黄化病（ウリ類退緑黄化ウイルス: CCYV）の総合防除体系の確立

定植期の早期診断、ウイルス抵抗性誘導剤及び気門封鎖剤を新たに組み込んだキュウリ退緑黄化ウイルス病の総合防除体系を確立する。

（熊本県農業研究センター、宮崎大学）

③　L^4打破系統トウガラシ微斑ウイルス（PMMoV）による夏秋ピーマンのモザイク病の総合防除体系の確立

定植期の早期診断、ウイルス抵抗性誘導剤の活用やL^4打破系統の伝染源対策を組み合わせた省力的かつ効率的なピーマンモザイク病の総合防除体系を確立する。

（岩手県農業研究センター）

５　最終目標

早期診断、ウイルス抵抗性誘導剤、物理的防除資材や気門封鎖剤及び天敵等を効果的に組み合わせた、予防型総合防除体系を確立する。

６　期待される効果・貢献

開発した予防型総合防除体系は、他のウイルス病や微小害虫の防除にも適用可能であり、化学農薬の使用量削減と農作物の安定生産への貢献、及び開発防除技術の全国普及が期待される。

【連絡先　宮崎大学農学部植物病理学研究室　0985-58-7169　minorutk@miyazaki-u.ac.jp】

08010c4	発生動態に基づく野菜ウイルス病害の診断・防除技術の早期・高度化

研究の背景と目的

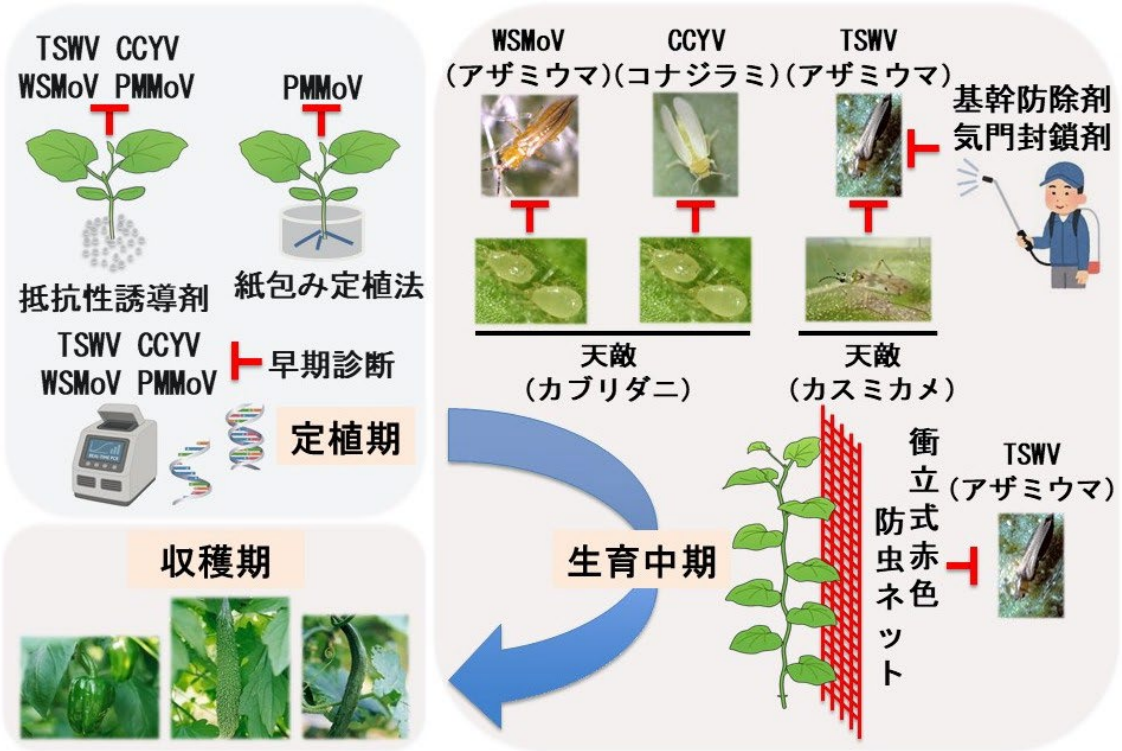
ウイルス媒介虫の薬剤感受性低下
抵抗性打破ウイルス系統の出現

→ 野菜ウイルス病害の急激な増加

→ 予防型総合防除体系による被害低減

研究内容（実施体制）

ウイルス抵抗性誘導剤、気門封鎖剤、物理的防除資材、
天敵及び基幹防除剤を組み合わせた体系の実証及び確立



①ピーマン（大分県）　②ニガウリ（沖縄県）　③キュウリ（熊本県）　④ピーマン（岩手県）　⑤科学的検証（宮崎大学）



最終目標

各種技術を統合した予防型総合的防除体系の確立



期待される効果・貢献

開発防除技術の全国普及　他のウイルス病や微小害虫の防除　化学農薬の使用量削減　農作物の安定生産



問い合わせ先；宮崎大学農学部　竹下　稔　email: minorutk@miyazaki-u.ac.jp